



OUTSIDE VIEW NOV OUTSIDE



# PIONEER

先駆者



## 左甚五郎

日本のアートに多大な影響を与えた伝説的な彫刻師。  
神の手で掘られた作品には、魂が吹き込まれる。

落語や講談にあがるほど有名な、左 甚五郎（ひだり じんごろう、ひだの じんごろう）は江戸時代初期に活躍したとされる伝説的な彫刻職人。左甚五郎作と伝えられる作品も各地にある。講談では地元の大工に腕の良さを妬まれて右腕を切り落とされたため、また、左利きであったために左という姓を名乗ったという説もある。彼の作品はあまりにリアルな為、その木彫りの動物たちが夜な夜な歩き出したという伝説を持っている。例えば、1592年に再建された秩父神社の木彫り「つなぎの龍」は、彼の彫った龍が夜毎田畑を荒らしたため、いつしか鎖が架けられたという程。熊谷と一見関わりがない人物と思いきや、2012年国宝認定された妻沼の歓喜院聖天堂に彼の作品が存在するんです。これはすごい事実。ミケランジェロの彫刻が近所にあつたら間違いなく見に行きますよね？しかも7年の大改修工事を終えて一番最高の状態で見学できます。日本のマチュピチュ竹田城跡なみのポテンシャルです。

# FACT

事実



## 国宝

極彩色が織りなす美の競演。  
庶民の熱い思いが時を超えて、国のタカラになった。

国宝（National treasures）とは日本の文化財保護法によって国が指定した有形文化財のうち、世界文化の見地から価値の高いものでたぐいえない国民の宝たるものであるとして国（文部科学大臣）が指定したものである。聖天堂の特徴は、建物全体が、極彩色（ごくさいしき）を施した精巧な彫刻で飾られている点にあり、これまで知られていた彫刻技術の高さに加え、修理の過程で明らかになった、5種類（黒・赤・黄・緑・こげ茶）の漆の使い分けなどの高度な技術が駆使された近世装飾建築の頂点をなす建物であること。また、そのような建物の建設が民衆の力によって成し遂げられた点が、文化史上高い価値を有すると評価されたものです。日光東照宮は国の威信にかけて創られたもの。歓喜院聖天堂は庶民の思いがカタチになったもの。まさに対極の極みです。

# 11

# OUTSIDE REVIEW

2013.NOV

## OBJECT

造形美



## 歓喜院聖天堂

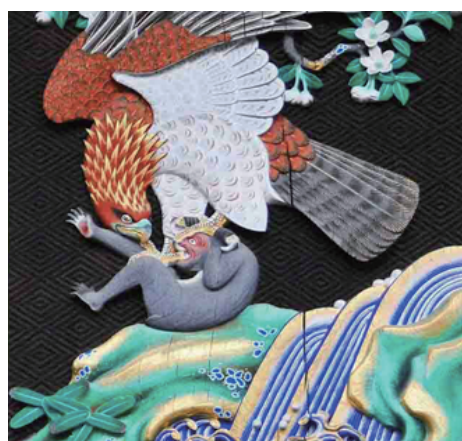
MADE IN JAPAN

日本品質のルーツがここにある。

かつてメイドインジャパンをこぞって人々が選択した時がある。時代の変化にともない、求められるニーズも多様化してきた。目まぐるしい技術革新は、品質のアペレージ化に成功した。ジャパンブランドの求心力は低下したのか？その答えはNoである。模倣品はオリジナルを超える事が出来ない。その答えがここにある。【花鳥風月】が物語るとおり、四季をここまで楽しむ文化は他にはない。だからこそ生まれた美的感覚なんですかね。ロマンチストでなくしても、うつくしいと言う言葉以外形容できません。美しいものは残る。潜在的にその使命感を埋め込まれた事実は歴史が物語ってます。

## CHARACTER

キャラクター



## 鷲と猿

主観のスイッチを換えるデアイがある。

熊谷で左甚五郎の作品にふれられる。その作品は『鷲と猿』。鷲が猿を捕らえている。一見すると自然界の食物連鎖を連想される構図だが事実は異なる。捕食でなく救済のメッセージが込められているのだ。人は他人より優れていることを褒められたりすると慢心を起こし、猿も木から落ちる。信心がないと、そのまま沈んでしまうが、信心があればミスを犯しても鷲（聖天さま）が助けてくれる。ということ表現しているそうです。アングルを変える事で、新しいストーリーが始まるんですね。言葉は物事を正確に伝える力がある。ビジュアルはワンメッセージで情報を与えられるが受け手側に左右される。良くも悪くも、その遊びの部分がデザインの面白いところです。今見える常識を疑ってみよう。

5  
♥

5  
♥

5

# OUTSIDEREVIEW

感度の別アングルを発信する  
communication seeds

**2013.11-Lot.No.5**  
**BEARCANION PUBLISHER**